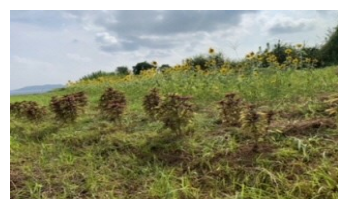




耕運したてのハーブ園



畝作り中



赤バジルしっかり活着してます

ぺこっ



ハーブ園作り

ちやくちやくと進めます！

5月頃から鑑瀬昆虫自然公園の手前の畑にハーブ園を作ろうと、少しずつ苗植えをしてきました。前回まち協通信に載せたように、ローズマリー・レモンバーム・ポリジ・キャットミント植えていたのですが…ローズマリー以外は活着しませんでした^^;苗植えをした頃は、雨が降らなかったためでしょうか…7月には、デイル・フェンネル・赤バジルと植えました。赤バジルはしっかりと活着していました♪デイルは何本か活着していました♪このように試行錯誤しながら、崎山の皆さんが目でも、鼻でも、舌でも楽しめるハーブ園を作って行きたいと思います！

もし、ご自宅や畑にハーブを植えている方。種か苗譲っていただけませんか？詳しくは、古里代表か崎山出張所の奥野までお願いします。



まち協 QRコード



Instagram

まち協のInstagram

ダウンロードしてみませんか？

各地区、もちろん崎山地区まちづくり協議会の活動が最新でみれますよ♪

崎山地区人口統計表 (令和3年8月31日 現在)

	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区
男	74	75	49	56	59	54	74	96	98	40	42
女	90	85	64	74	66	67	81	103	96	53	51
合計	164	160	113	130	125	121	155	199	194	93	93

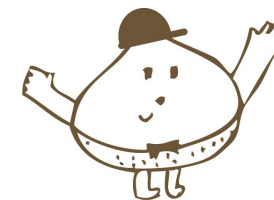
崎山地区全体 男 717名 女 830名 計 1,547名 (先月比0名)

崎山地区まちづくり協議会 事務局 集落支援員 奥野

五島市役所 崎山出張所内 TEL 0959-73-6389

崎山地区まちづくり協議会

まち協通信 第17号



カボチャの収穫できました♪



「高齢者と子ども達の絆事業」の一環として、モヤゴ畑を始めたのですが…なかなかイベントができません(;▽;)5月に高齢者と子ども達で苗植えをしようとしていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。8月には、鑑瀬昆虫自然公園で昆虫調査を計画していましたが、またまた中止。それでもいつか皆でできる日が来るかも、とカボチャは育てていました。児童クラブの子ども達も時々、カボチャの成長観察に立ち寄ってくれていました。

昆虫調査が中止になったことを伝えると、児童クラブの予定をカボチャの観察に変更していただきました。ならば、カボチャの収穫をしてもらおう！と8月27日残暑厳しいなか、子ども達に収穫をお願いしました。一緒にはできなかったので後日カボチャを受け取りに行ったら、コンテナ3個分収穫してました！！！！いろいろな種類のカボチャが実ってましたよ！(ロロン・そうめん・バターナッツ・ごっちゃん・鹿ヶ谷)

カボチャは、10月のハロウィンカボチャランタン作りに使いたいと思っています。どんなランタンができるか、今から楽しみです(*'ω'*)♪♪♪

(※写真は崎山児童クラブさんからお借りしました)

モヤゴ畑で取れた「スイカ」「ウリ」も崎山児童クラブの子ども達に食べてもらいました♪鑑瀬昆虫自然公園で昆虫調査した際に皆で食べようと思っていたのですが、イベントが中止になったので子ども達だけでいただきました。



令和3年10月1日 発行

鬼岳火山群の溶岩台地（ジオ）に生きる “さっきゃまびと”

Vol. 2
2021.10.1 発行
発行責任者
崎山地区まちづくり協議会
代表 古里 幸一
090-2393-1990

小学生の頃 毎年渇水期や夏場になると井戸水を釣瓶（つるべ）で汲み上げ、バケツで炊事場の水瓶（みずがめ）や五右衛門風呂に運んでいた。我が家には高祖が掘った井戸があったので庭との往復で済んでいたが、掘り井戸が無い家庭では我々世代の子供たちにとって辛くてきつい仕事だったことを思い出す。崎山地区は簡易水道設備が整い（昭和34～35年度工事）、各家庭にも水道蛇口が取り付けられていたが、毎年渇水期や夏場になると断水、また水源が深井戸であったことから飲むと塩辛い水となったのを覚えている。塩分濃度も定期的な断水も気にせず水を利用できるようになったのは、籠淵浄水場から本山地区、大宰を経由した上水道に崎山簡易水道設備が統合されてからであり、昭和45年（1970）4月からのことです。【福江市史】 それまでの“さっきゃまびと”の生活は、明治・大正・昭和・平成・令和と元号は変わっても、崎山地区には水道設備はなく、集落にある共同井戸、各家の掘り井戸、ダメの溜め水や山の裾野・土手などの湧水を生活用水として利用してきました。

現在、火の岳・鬼岳に降った雨水が崎山地区の溶岩台地に湧水となり、水が絶えないでいる場所は、中野の川と鑑瀬共同井戸のみであり、先輩諸氏の思い出にある田んぼ、畑の土手、道路脇の湧き水は、道路拡張工事及び農地区画整備工事等の影響か水が絶え、現在では確認できない。



中野の川 (湧水)



鑑瀬共同井戸 (湧水)



ヤムラの川 (地下水)

崎山地区の最古の井戸は「ヤムラの川」といえる。崎山地区は川が無いと、湧水の場所及び共同井戸等を「川（カワ）」と伝えている。中央では足利尊氏が征夷大將軍となった室町幕府時代。延文元年(1356)～延文5年(1360) 今風で言えば、内裏の警察職員？であった左兵衛（兵庫之助）本村基重が瀬戸内海の地方より崎山に移住、城の辻に城郭を築き、崎山一帯を統轄した。水資源に乏しく困り果てていた村人に溶岩台地はその末端の崖下を掘ると地下水が湧き出ると教えて掘ったとある。地形的には向島と火の岳溶岩との境であり、素人眼では火の岳溶岩台地と考えている。以来 “さっきゃまびと”は今でも大切に「ヤムラの川」を祭っている。【五島史と民俗】【五島編年史】

農村のつるべ井戸が見られるのは『農具便利論』江戸幕府・文政5年（1822）【絵が語る知らなかった江戸のくらし 農山漁民の巻】であり、以降、五島藩へも井戸掘り技術が伝播されたものと推測する。

因みに我が家の手掘り井戸は、明治38年（1905）頃 高祖（5代前先祖さま）が掘ったものである。



中山様宅掘り井戸 (地下水)



野口様宅掘り井戸 (地下水)



野口様宅ダメ (雨水)

崎山地区まちづくり協議会・崎山鑑瀬自然を守る会は五島列島ジオパーク構想の推進に取り組んでいます。

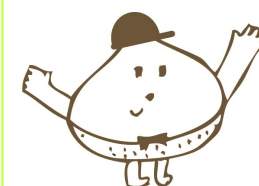
社会福祉法人さゆり会は、“崎山鑑瀬自然を守る会”を応援しています。



鑑瀬共同井戸

中野の川

ヤムラの川



ヤムラの川は飲料水として活用されたとされています。約30年前までは、「末期の水」として飲むと成仏する。と言われていたそうですよ！

～崎山地区の民話【くされ水(みん)川】～

昔のこと、長手町山中の浜本さんの畑に、長手出身で僧の修行に行っていた弥三七という人が、長手に帰り小さな寺を立てて住むようになった。

弥三七和尚は毎日夕方になると、寺の下を流れる川までおりて水を汲むのが日課の一つである。

ある年日照りの続いた夏のこと、いつものように水汲みに下の川まで下がってみると、昨日までサラサラと流れていた水も涸れてチョロチョロ流れに変わっていた。考えたあげく、付近の石ころや土で水の溜まり場を作り、水の溜まるのを待って汲もうとしたところ、こしらえたばかりの土と石ころの淵が崩れ落ち、水がにごり水を汲めない。

怒った和尚は、「エイ、こん、くされみん」と言うが早いか、手に持っていた水桶を水溜り場にたたきつけて寺に帰った。

それ以後、この寺の横を流れる川のことを「くされみん川」と呼ぶようになった。

☆古老の話では、この川でテングサ・オゴノリを洗っていたそうで、昭和初期までみられたらしい。

崎山の知恵袋より

～五島ジオパーク構想とは～

ジオパークとは、「地球・大地(ジオ：Geo)」と「公園(パーク：Park)」を組み合わせ「大地の公園」という意味です。ジオパークでは、見どころとなる場所を「ジオサイト」に指定し、多くの人が将来にわたって地域の魅力を知り、利用できるよう保護を行います。その上で、ジオサイトを教育やジオツアーなどの持続可能な方法で経済活動に活かし、地域を元気にする活動や、そこに住む人たちに地域の素晴らしさを知ってもらう活動を行う取り組みです。



五島列島ジオパーク構想
GOTO Islands GEOPARK Plan